

令和3年10月15日

南の風 For Junior65

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

64の続きです。

UCLA カットした1番にパスが入らなければ、5番が3番にピックにいきます。3番はピックを利用して、ドライブで攻めます。ヘルプが来ればコーナーにいる1番がバックカットで合わせます。

この時に、逆サイド4番が2番にバックスクリーン（フレアースクリーン）をかけます。2番はスクリーンを利用して、リングにカットします。ボールが来なければコーナーにいきます。スクリーンをかけた4番は状況を見て、ポップアウトします。（前が空いていればリングにダイブしてもよい）

3人サイド（1番、3番、5番）で、1番から3番にパスできなければ、直接5番にパスを入れてハイポストから攻めます。その瞬間、3番はバックドアカットでリングを攻めます。（ビハインドパスが有効）

1番は3番のバックドアを見て、タイミングをずらして（トレイル）UCLA カットしてリングを攻めます。5番は2人（3番、1番）へのパスと、自分の1on1を判断しながらプレーします。うまくいかなければ、3番はウイングへ上がり、1番はコーナーに行きます。すると最初のトライアングルの形に戻ります。

2人サイド（2番、4番）の攻め方です。前提として、2人サイドの方がインサイドに広いスペースがあるので、1on1で攻めることを忘れないようにします。

逆サイドの1番から2番にパスがいきます。2番からウイングの4番にパスが入ったとします。1on1できれば思い切っていきます。Defを振り切れればペイントアタックします。後はアウトナンバーの攻めになります。2番はパスした後、4番のDefにダウンスクリーンをかけます。4番は2番のピックを利用してドライブするか、2番のダイブに合わせます。

この時、逆サイドは、3番が1番のDefにバックスクリーン（フレアースクリーン）をかけます。1番はコーナーに向かいます。

ボールマン（4番）は逆サイドの状況もしっかりと見ておきます。ノーマークになればパスします。

2人サイドの攻めで、2番から4番にパスが入らなければ、4番はバックドアカットをして合わせます。それも入らなければ、2番がドリブルでペイントアタックします。それに合わせてリプレイスした4番と、ドリブルスクリーンを使ってチャンスをつくり、ドリブルハンドオフパスや、2番のドライブ続行でリングを攻めます。逆サイドの3人は、1番、3番がフレアースクリーン使ってチャンスを広げたり、5番がポストで合わせたりします。

繰り返しますが、ミドルライン（リングとリングを結んだ仮想線）を境にして、右サイドの選手は左サイドにカットしないように（反対も）ルールをつくっておきます。中学生やミニバスの皆さんにとって、動きの複雑さを防ぐことと、スペースングや状況判断の負荷が小さくすることが狙いです。

今回紹介したトライアングルオフェンスは、2年前に静岡で行われた、5県（静岡、愛知、山梨、東京、神奈川）対抗の富丘カップで、横浜南部ミニ選抜の選手に指導したものです。計8回の練習会でしたが、参加選手の取り組み、がんばりが素晴らしく、優勝という結果を残すことができました。